



# 第六中学校

## 学校だより 第11号

令和8年3月6日

### 感謝とともに歩む、旅立ちの春

校長 石橋 聡

数多くのドラマや感動を生んだミラノ・コルティナオリンピックが閉幕し、早いもので令和7年度も最後の月を迎えました。2月17日・18日には公立高校入試が行われ、170名を超える生徒が進路決定に向けて全力で取り組みました。

3月は、年度を締めくくる行事である「3年生を送る会」、「卒業証書授与式」、「修了式」があります。生徒一人ひとりがこの一年を振り返り、確かな「成長」を実感するとともに、支えてくれた周囲の方々へ「感謝」を伝える節目としたいと思います。

先日行われた「3年生を送る会」では、1・2年生は精一杯準備を重ね、3年生への感謝とエールを込めてお世話になった先輩たちを心から感動させる素晴らしい発表でした。1・2年生にとって、この会は自分の歩みを見つめ直す機会となりました。この一年で「できるようになったこと」「努力を続けたこと」など成長した姿を示すことができました。3年生は受験や進路選択を乗り越え、新たな世界への入り口に立った夢や希望に溢れ、仲間を想う気持ちを込めた合唱を披露しました。

3年生にとって、卒業式は義務教育の集大成となる大切な行事です。「花ひとり開くにあらず、春風来たりて開くなり」と言われます。三年間の自分の努力に誇りをもつとともに、それを支え励ましてくれた友達、家族、先生方への感謝の気持ちを忘れないください。第79回となる「卒業証書授与式」は、これまで六中をリードしてきた3年生の「有終の美」を飾るにふさわしいものになるよう、在校生、教職員で心を込めて準備していきたいと考えています。六中の三年間で成長した自分に自信をもって、次のステージでも挑戦してくれることを願っています。

#### <保護者の皆様へ>

保護者の皆様、地域の皆様には、日頃より本校の教育活動に温かなご理解とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

本校では、3月を「成長と感謝を共有する場」として大切にしています。卒業式や3年生を送る会、学年のまとめの活動は、単なる行事ではなく、生徒が自己の成長を認識し、周囲への感謝を伝える貴重な学びの機会です。これからも、生徒たちが自分の成長に誇りを持ち、人とのつながりに感謝できる学校づくりを進めてまいります。

今年度、保護者の皆様方から多くの温かい励ましの言葉やご支援・ご協力をいただきましたことを心より感謝申し上げます。令和8年度も、本校教育活動へのご支援・ご協力のほどよろしく願いいたします。

#### <千葉県新人駅伝大会 大健闘！ 男子第16位！ 女子第24位！>

2月14日（土）、柏の葉公園総合競技場周回コースにて千葉県中学校新人駅伝大会が開催されました。本校は松戸市代表として出場し、県内60を超える参加校の中、男子チームは16位、女子チームは24位と健闘しました。インフルエンザが流行し、コンディションが万全ではなかった中でしたが、選手はベストを尽くして走り切りました。ご声援ありがとうございました。

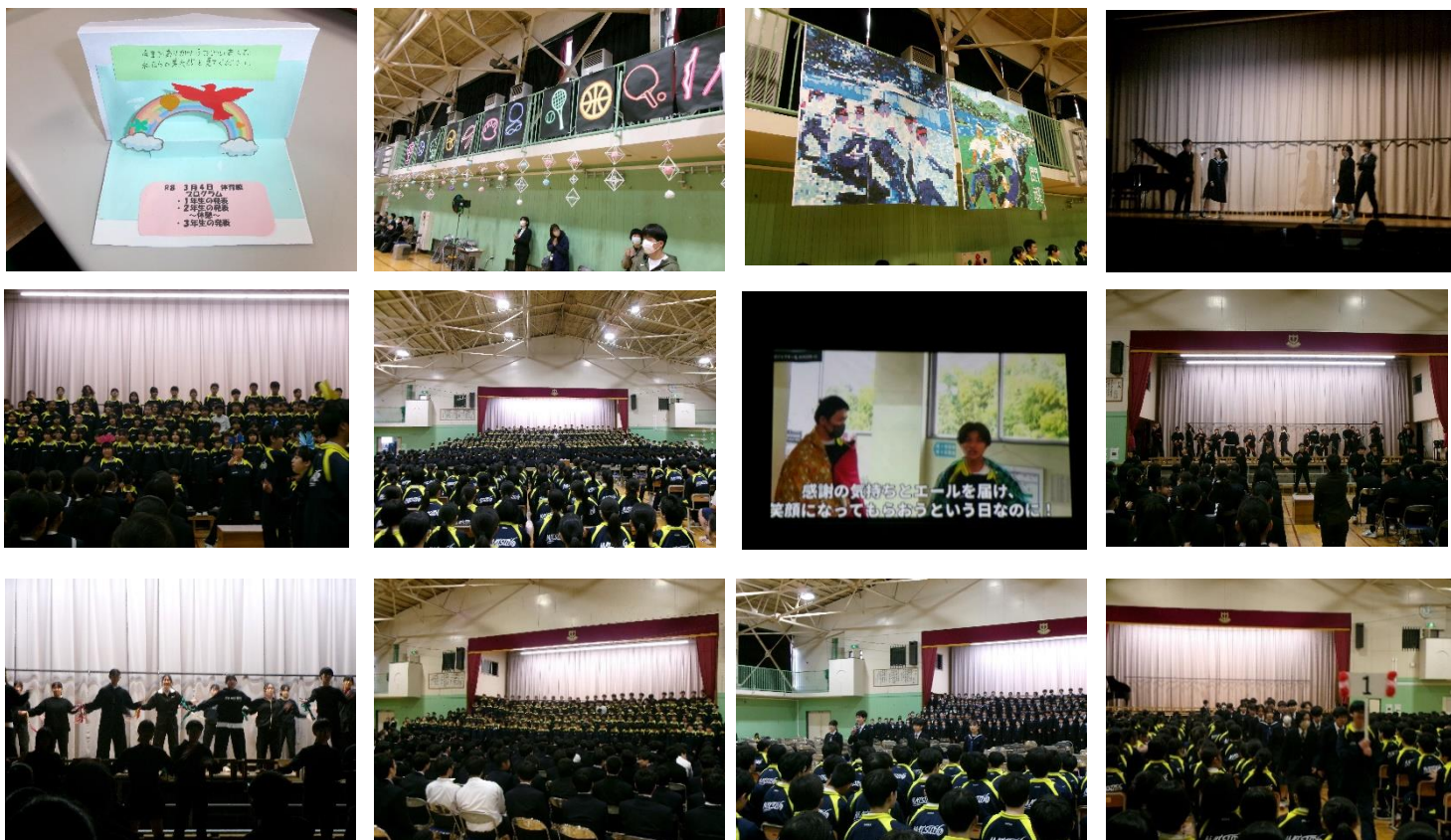
## 3年生を送る会

春の気配が少しずつ感じられる中、生徒会を中心に準備を進めてきた「3年生を送る会」が行われました。卒業を控えた3年生へ、在校生が心を込めて感謝とエールを送り合う、温かい雰囲気になった会となりました。会場には、2年生と美術部が丹精こめて制作した華やかな装飾が並び、3年生の歩みを優しく包み込む空間が広がりました。1年生が作成した招待状も3年生の手元に届き、会の始まりにぬくもりを添えてくれました。

発表の場面では、1年生が元気いっぱいの劇や合唱を披露し、この1年間の成長した姿を見せてくれました。続く2年生は、力強いダンスやエール、合唱を通して、次の最上級生としての決意を表しました。3年生からは、後輩へのメッセージと美しい合唱が届けられ、三年間の思い出や仲間との絆が優しい歌声とともに伝わってきました。

学年を越えて心が通ったこの会は、3年生にとって旅立ちへの力となり、1・2年生には先輩たちの姿から多くを学ぶ機会となりました。

3月12日には卒業証書授与式が控えています。3年生が六中で育んだ力を胸に、新たな一步を踏み出せるよう、全校で準備を進めていきます。3年生の皆さんの未来が、あたたかな光に満ちたものとなりますように。



### <非認知能力検査の実施について>

今学期本校では1～3年生で、(株)図書文化社の教研式非認知能力検査をWEB方式で実施しました。この検査は六中生徒の非認知能力(創造性、意欲、協働性や共感性などペーパーテストでは測れない力)を図り、伸ばすことが目的です。今回は保護者の費用負担なしに実施いたしました。この検査や市教育委員会実施のWEBQUを通して、生徒の学校生活の向上に向けた実証研究を行い、学校及び個人が特定されない形にて教育実践報告や学術論文等の資料とすることで社会貢献活動に寄与していく可能性があります。この件につきまして、ご質問などがございましたら、教頭稲積までご連絡ください。